



2018年7月1日発行
1916年5月1日創刊
発行 / 小川 健一郎
編集 / 大阪 YMCA 広報室
〒550-0001
大阪市西区土佐堀 1-5-6
Tel 06-6441-0894
Fax 06-6445-0297
URL: <http://www.osakaymca.or.jp>

YMCA 大阪青年 7・8

ことばでつながる — 大阪YMCAの日本語学校

ボランティアチューターの方と話す留学生たち



「せんせい、わたし、今、日本です。ごはん食べに行きましょう。」見慣れない番号からの電話に出ると、懐かしい学生の声がありました。声の主は、1986年から1993年3月まで堂島にあった日本語学校に在籍していたタイからの留学生で、今回は6、7年ぶりの再会でした。初めて家族全員を伴って来日したそうで、その日は彼の家族6名との賑やかな食事になりました。

大阪YMCAでは、1969年に教会関係の外国人に日本語を教え始め、1985年に留学ビザの申請が可能な日本語コース（いわゆる日本語学校）を設置しました。現在、大阪YMCA国際専門学校日本語学科および進学日本語学科（土佐堀校）、大阪YMCA学院日本語学科（天王寺校）の2か所で日本語教育が行われ、両校に34の国と地域から600名余りの留学生が学んでいます。

日本語教師という職に就いて以来、私は「なぜ日本語を教えるのか」ということを自分に問い続けています。私が初めて教壇に立ったのは1986年、海外日本語教師として赴任した台北YMCAの教室でした。クラスの半数は私より年上の社会人でしたが、教師になって間もない私を「先生」と呼び、大切にしてくれました。台湾は日本の植民統治時代という過去を持つにも関わらず、です。

世界には、400万人近くの日本語学習者がいます。そのうち、上位5か国は韓国、インドネシア、中国、オーストラリア、アメリカ、台湾はそれに次ぐ6位です。これを見てわかるのは、過去の戦争で悲惨な経験を強い国や地域で、未だに日本語を学ぶ人々が多いことです。かつてことばや文化の強要は、その国や地域の人々を統治し、支配するための武器となりました。しかし、その時代にことばや文化を共有したことによる結びつきが、今なお受け継がれているのです。ことばとはどれほど強い力をもつのでしょうか。私たちは、ことばの持つ力を武器ではなく、人と人をつなぎ、親しい関係を結ぶ道具としたいと思っています。

大阪YMCAの日本語学校には、留学生と日本語での話し相手をしてくださるボランティアチューターやワイズメンズクラブ、また、バザーや新入生歓迎会などを催して下さる「にほさば会」など、留学生をサポートして下さる方々が大勢いらっしゃいます。一方で、留学生にも小中学校訪問や被災地支援などのボランティアを奨励しています。様々な人々が関わり合う中で留学生を支え、また留学生にも支えられるという関係が築ける日本語学校は、他にはないでしょう。

大阪YMCAの日本語学校は、2019年に50周年

を迎えます。今後、日本は人口減少による労働力不足が深刻になり、外国人の受け入れが進みます。地域社会に外国人が増えることで様々な摩擦が生じることも考えられます。私たちが教育の理念として掲げる「みんなが一つになるために」の実践は、きれいな事ではありません。しかし、ここには人々の豊かな交わりがあり、私たちの思いを受け止めた多くの優秀な留学生たちが巣立っています。

冒頭の元留学生と、定年後の話になりました。事業に成功して裕福に暮らしている彼は、「ボランティアがしたい」と言っています。そんな彼らが世界中にいることを想像すると、誠に嬉しく、誇らしい気持ちになります。



タイからの卒業生と再会。右端が筆者。

大阪YMCA留学生事業部 日本語プログラム教務主任
大阪YMCA国際専門学校 日本語学科 主任教員

かめだ みほ
亀田 美保

■大阪YMCAの使命

大阪YMCAは、聖書に示されたイエス・キリストの愛と奉仕の生き方に学び、YMCAの世界的な運動に連なり、希望を持って、共に生きる社会の実現をめざします。

- ボランティア精神をはぐくみ、互いに協力し、明るくあたたかい地域社会の形成に努めます。
- すべての世代の人びとが、出会いと生きがいを見いだすための、生涯にわたる気づきと学びの活動を展開します。

- 未来を築く力強い子どもたちを、家庭、地域社会と共に育てます。
- 生命を尊重する心を養い、自然と人間が調和する働きをすすめます。
- 世界の人びとと力を合わせ、環境、人権、貧困の課題に取り組み平和で公正な世界をめざします。

違いを受け入れることを学ぶ場、YMCAの日本語学校 ～大阪YMCA留学生事業～

学校事業部 留学生事業グループ長 ^{すずき} 鈴木 えみ

日本政府は、2008年に14万人だった留学生を2020年までに30万人に増やそうという「留学生30万人計画」を発表しました。ところが、2018年12月末に311,505人となり、2年も前倒して計画人数を達成しました。

大阪YMCAの2つの日本語学校でも年々入学希望者が増え、現在は34の国と地域から約600名の留学生が学んでいます。彼らは「日本語」を学びながら日本を学び、また「日本語」を使って自身の文化を発信したり他者の文化を受け入れたりしながら、自分の価値観を広げています。

国や地域が違う・言葉が違うということは、自分との違いが新鮮に映り興味を抱きやすいですが、日本人同士ではどうでしょうか。国も同じ・言葉も同じであると、ややもすれば、少しの違いも受け入れ難く、常識という言葉で自分の価値観に当てはめていないかと省みることが、しばしばあります。留学生がいる現場で働き、気づかされたことの1つでした。

YMCAの日本語学校は、学生も先生もボランティアも、誰もが違いを受け入れることを学ぶ場であり、平和を創りだそうとする人を育む場であると確信し、神様のお手伝いをし続けたいと思っています。



私のYMCA体験

大阪YMCA国際専門学校日本語学科 スタッフ ^{かわかみ りょうた} 川上 良太

世界で感じた共生体験

私の両親は自営業で、週末や長期休暇時も休みが取れなかったため、私は小学生の頃から南YMCAで毎月の野外活動・阿南キャンプ・スキーキャンプなどに参加していました。体は小さかったですがホームシックにもならず、人見知りもせず、食べ物の好き嫌いもなかったため、いろいろなところにキャンプで行くことができました。

それらの活動の中で、あるスタッフの方に特にお世話になり、大阪YMCAが台北YMCAに訪問するというプログラムに声を掛けていただき、初めての海外旅行で台北YMCAを訪問しました。その時には、台湾の子供たちと一緒に2泊3日のキャンプも行いました。当然お互いに言葉はわかりませんでした、子供同士で慣れてくると、何となく意味が分かるという貴重な体験をして、私の台湾好きのきっかけになりました。

それから30年が過ぎ、今は大阪YMCAの日本語学校で留学生を受け入れ、さらに台湾に学生の募集に行く担当をしています。本当にYMCAは不思議な縁のある場所だと思います。



台北YMCAでのキャンプにて。後列右から2人目が筆者。

YAPUN第6回協議会報告

グローバル事業推進室 室長 ^{たじり ただくに} 田尻 忠邦

第6回アジア太平洋地域YMCAアーバンネットワーク協議会(YAPUN)が、5月7日(月)・8日(火)にオーストラリアのメルボルンにあるYMCAビクトリアの主催で行われました。シンガポール、メトロポリタン、ソウル、スリランカ、台北、台中、上海、大阪、ビクトリアの9都市YMCAから24人が出席して、YMCAビクトリアによる全豪に及ぶスイミングプログラムと水上安全教育の紹介や、行政との協働によるプールやフィットネスセンターの指定管理事業の報告を含む協議会に臨みました。

今回から名称をYMCA Asia and Pacific Urban Network (YAPUN)に変更して、新たなスタートを切りました。東アジアYMCAアーバンネットワーク(旧EAYUN)の過去3年間の活動を振り返り、評価をして、今後3年間のビジョンと活動方針、そして行動計画を策定しました。これからは、毎年行動計画の評価をし、3年ごとに活動指針を見直すことを合意しました。



YMCA阿南国際海洋センター50周年記念感謝の集い

YMCA阿南国際海洋センター 事業長 ^{かんだ ひとし} 菅田 斉

「YMCA阿南国際海洋センター50周年記念感謝の集い」を5月12日(土)、快晴に恵まれる中で挙行了しました。徳島県阿南市や漁業組合をはじめとする地域の方々や利用団体、ボランティアリーダーOBOGやYMCA関係者など、総勢242名が集い、共に50年の歩みを振り返り、参加者の皆様とはキャンブアナストーリーを語り合いながら過ごすことができました。

YMCA阿南国際海洋センターは、「海洋を通じた、グローバルな視点と新しい価値観を持つ青少年の心身の健全な育成」という設立時からの願いを、これからも実践し続け、社会に必要とされる施設としてあり続けたいと願っています。今後とも、皆様のご協力とご支援をよろしくお願いいたします。



^{おがわ} 小川 総主事から ^{いわた} 樺泊 漁業協同組合理事の 太田 雅敏さんへ感謝状を贈呈しました。



^{いわさき} 岩浅 嘉仁 阿南市市長より祝辞をいただきました。



1977年に徳島県立聾学校から阿南キャンブに参加された ^{やまざき} 山崎 茂久さん(写真右)は、参加当時は小学5年生でした。土佐堀の大阪YMCA会館2階エントランスに展示されている版画を作った方の一人です。写真左は酒井 哲雄 元所長。

大阪YMCA創立136周年記念礼拝・Yボランティア研修会

活動推進委員 ^{しめだ けいぞう} 田 啓三

大阪YMCA創立136周年記念礼拝とYボランティア研修会が、6月2日(土)に112名の参加のもと開催されました。

第一部の記念礼拝では、日本基督教団浪花教会の山口恒牧師から、聖書「マタイによる福音書第5章13節から16節」を通して、「みんなで前へ進む」というテーマで奨励をいただきました。大阪YMCAが136年間、それぞれの個性を生かしながらも一丸となって受け継がれてきた活動をしっかりと受け止め、今後も「地の塩」「世の光」としての活動を引き継いでいきたいと思いますというお話をいただきました。

第二部では、^{おがわ} 小川 健一郎 総主事からの「大阪YMCAが目指す方向性について」の基調講演の後、参加者全員がグループに分かれて、「今、なぜ私はYMCAに関わっているのか」「今後、私は何をすべきなのか」について話し合いました。各グループでの話し合いが

発表され、「大阪YMCAが目指す方向性」をふまえた一人ひとりの役割が確認されました。

なお、記念礼拝で集められた席上献金56,163円は、大阪YMCAが本年も引き続き行っている「熊本震災復興支援」の支援金に募金されました。



健康のための予防②

のぐちけんたろう
土佐堀事業長 野口 賢太郎

「平成28年簡易生命表」では、平均寿命が男性80.98歳、女性87.14歳となり、過去最高を更新しました。統計では「健康寿命(健康上の問題で日常生活が制限されることなく生活ができる期間)」と平均寿命の差は、男性約9年、女性約12年で、この年数は健康でない状態で生活していることとなります。

信号が青になり横断歩道を歩き始めたが、渡りきる前に信号が変わったことはないでしょうか。加齢とともに筋力は低下します。筋力が低下すると歩く速度に影響するだけでなく、**運動(活動)量が低下する→筋力が弱る→歩く速度が遅くなる→つまづきやすくなる→転倒する→骨折する→さらに体を動かさなくなる→さらに筋力が弱くなる→・・・**と、負のスパイラルが始まります。海外の研究では歩行速度と平均余命に関して正の相関が認められるという研究もあります。

負のスパイラルが発生すると、ロコモティブシンドロームやサルコペニア(加齢に伴う筋量と機能の低下)など、生活習慣病などの慢性疾患や老年症候群のいろいろなりリスクが相互に影響する状態となります。フレイル(虚弱)な状態の時は、身体や心がストレスに弱くなっている状態ですが、ここで自分自身または家族など周囲の人が介入し早く対処することで、健康な状態に戻せる可能性が非常に高くなります。

人と人とのつながりが減ることで、いろいろな意欲が低下し、負のスパイラルに入っていきます。予防するという意識より、一人ひとりが健康寿命を延ばすため、また人生を豊かに過ごすため、QOL(生活の質)を向上させるために今から準備していくことが求められています。



南YMCAの成人プログラムの様子

大阪YMCA「安全の日」について

大阪YMCAでは、屋外での活動の機会が多くなる本格的な夏を迎えるにあたり、毎年7月18日を、大阪YMCA「安全の日」と定め、「生命」の大切さと自分自身の「安全」と他者の「安全」を考える機会として、「安全キャンペーン」を実施しています。

私たちは、日常生活の中で多くの危険なことに直面しながら、知らず知らずのうちに見過ごしたり、気づかなかったりすることがあります。自分自身は気をつけていても、思わぬ災難、災害の当事者になることもあり、単に軽い怪我だけでなく、尊い生命までも失ってしまうことさえあります。

たった一つしかない自分の「生命」を自分自身で守っていくために、そしてYMCAが大切にしている価値(思いやり、誠実さ、尊敬心、責任感)にも関連し、自分自身と他者の「安全」を考えていくために、この「安全の日」を機会にもう一度、身の回りの安全について、ご家族やお友だちと一緒に考えてみてください。

なお、大阪YMCAでは水上安全キャンペーンを6月から8月まで実施しています。小学校での着衣泳の体験会、YMCAクラス内での「ウォーターセーフティハンドブック」の配布とお話、野外・キャンプ活動を通じて、「生命」の大切さについて考える機会を設けています。また、ビクトリアYMCA(オーストラリア)、ソウルYMCA、台北YMCA、メトロポリタンシンガポールYMCAと協働し、アジアの子どもの水難事故を減らす活動にも取り組んでいます。

これから暑い夏を迎えますが、身体に気をつけ、健康で有意義な夏を過ごされますようお願いいたします。

第24回 大阪YMCAチャリティーラン2018 開催のお知らせ

日時	2018年9月24日(月・祝)9:00~13:00
場所	花博記念公園鶴見緑地 特設コース
申込締切日	2018年8月31日(金)
お問い合わせ	大阪YMCAチャリティーラン事務局 TEL:06-6441-0894 FAX:06-6445-0297

ユースリーダー安全支援金ご協力をお願い

大阪YMCAでは、YMCA運動を支え発展させていく担い手であるユースボランティアリーダーの安全と研鑽のために、研修などに用いられる募金を行っています。

みなさまのご協力をお願いいたします。

- 【募金方法】 一口 1,000円
- 【募金期間】 7月1日(日)~8月31日(金)
- 【受付窓口】 各YMCA、大阪YMCA統括本部(06-6441-0894)

大阪YMCA早天祈禱会

YMCAを愛する人びとによって共に祈る時(毎月第3金曜日予定)が持たれています。YMCAの様々な場で活動されている方々にお話をいただき、人生の歩みを分かちあう恵みの時としています。

- 第303回 日時...2018年7月20日(金) 7:30~8:30
証 しま 眞一 さん
(大阪土佐堀ワイズメンズクラブ直前会長)
 - 第304回 日時...2018年8月17日(金) 7:30~8:30
証 いたさき としこ さん
(YMCAたかつきあま保育園園長)
- 場 所...大阪YMCA会館 10階 チャペル

会員・賛助会員としてのご協力に感謝申し上げます。

2018年5月度報告・敬称略

【新規会員】 申一男	國友 朝子 越野 滋明 坂田 茂 佐古 利子 佐古 至弘 清水 誠治郎 卜田 昭子 卜田 啓三 鈴木 璋三 武井 和子 田中 惟介 津田 誠 寺岡 博也 堂本 隆子 大岸 弘子 金田 恒 河本 武久 木村 容子	西野 陽一 西村 和雄 西村 耕 長谷川 幸子 初田 知綾子 林 恵美子 林 博彦 藤井 道雄 藤田 貴大 富士水 英一 前田 孝志 前出 孝子 松岡 虔一 松本 武彦 松本 三枝子 丸尾 欽造 水野 善夫	水口 美里 村上 徳光 森 雅史 森井 隆生 森浦 隆之 森田 照美 山内 信三 山崎 太詩 山本 雅司 【継続賛助会員】 株式会社 シェル石油大阪販売所 三菱商事株式会社関西支社 株式会社西島製作所
----------------------	--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

大阪YMCAのホームページで
その他の情報をご覧ください。

